

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	4 教育研究組織 《全学的な視点》	
中項目		
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。	
要素	教育研究組織の編制原理	
	理念・目的との適合性	
	学術の進展や社会の要請との適合性	
	(KG1) 研究活動の状況	
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。	
要素		

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 高等教育推進センターを設置し、高等教育を取り巻く環境の変化に対応するための全学的施策を練るとともに、FDに関する全学的方針の策定と推進を行う。	→教育のための情報インフラ整備と、LMSのユーザ数および科目数の増加。教育に関する効果的な提言の数。外部への情報発信の頻度。	B	B			
2. 共通教育センターを設置し、全学共通教育の質を担保する。	→共通教育プログラムの提供科目数、履修者数、単位取得率。ただしこれらはアウトプット評価指標にしかない。アウトカム評価は、これらの科目単位を取得した学生が社会において活躍し高い評価を受けることによってなされる。	B	B			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし					
なし	→なし					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目4.0.1	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。 (説明) 全ての教育研究組織の設置や改廃は、大学評議会および理事会の議を経て最終決定されるが、「理念・目的に照らして適切なものであるか」は最も重要な事項であり、この点に問題がないことは必ず審議される。また、組織の適切性に関しては、そこに至るまでも様々な会議体であらゆる観点から議が尽くされる意思決定プロセスが構築されているため、不適切と考えられる研究組織が設置される余地はない。
小項目4.0.2	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いづれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない
その他	高等教育推進センターに関しては、設置1年を経ているいくつかの組織的課題が指摘されていることをふまえ、今年度はその点検を行う委員会を設置することが計画されている。共通教育センターに関しては、教務委員会や教育推進連絡会議等で、共通教育プログラムの再編を継続的に検討するとともに、組織の点検を行うことが計画されている。

《評価指標データ》

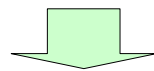
- 博士研究員（PD）の受入状況
- 日本学術振興会特別研究員（DC、PD）の受入人数
- 研究誌発行状況
- 提携大学との研究誌等の交流状況（送付・受入）
- 専任教員の発表論文数【基本的な指標データ】
- 学術賞の受賞状況【大学基礎データ】
- 学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文件数
- 21世紀COEプログラムの採択状況
- 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況【基本的な基礎データ】
- 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択状況【基本的な基礎データ】
- 特定プロジェクト研究センター制度の活用状況【基本的な基礎データ】
- 国際学会でのゲストスピーカーの延べ回数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

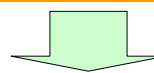
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○高等教育推進センターについては、委員会での実りある審議が望まれますが、特に、教務部との連携、分担が明らかになることは大切です。共通教育センターについては、KG学士力の特徴が生かされることが期待されます。

【学内委員】

○目標2で共通教育センターについて全学共通教育の質の担保を課題としていますが、その指標として提供科目数、履修者数、単位取得率が挙げられています。質の担保の指標としてこれだけでは物足りないと思います。授業内容や授業評価といった質的な指標も必要ではないでしょうか。

○「現状の説明」の「その他」において高等教育推進センターや共通教育について組織の点検が計画されている旨述べられていますが、その背景となる課題などについての説明が無く、事情がわかりにくい。両センターとも「目標」に特記されている組織だけに、もう少し丁寧な説明が必要ではないでしょうか。

○「定期的には、各組織の決算報告の審議に伴う活動報告、成果指標データに添付した各種成果指標の報告等を通じて、各組織の活動が適切なものであったかの点検が行われている。」とのことですが、具体的にはどの場で検証されているのか、委員会等の名称をあげていただけないでしょうか。

○4.0.1の説明では「あらゆる観点から議が尽くされる意思決定プロセス」について詳しく説明されることが望まれます。「不適切な組織が設置される余地はない」との説明も具体性を欠いてしまいます。

○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことになる必要があります。そのためには、組織の全体図を示された上で、大学全体として学部・学科、研究科、専攻、センター、研究所などの構成や内容が適切なものかを、要素を参考にしながら現状説明されることが必要ではないでしょうか。

○2010年4月新設の国際学部や、その他定員変更など各種届出なども、理念・目的の達成のための説明として必要ではないでしょうか。

【大学基準協会:評価に際し留意すべき事項】

○小項目4.0.1

基盤評価：なし

達成度評価：「教育研究組織が、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものである」

○小項目4.0.2

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育研究組織の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★学内委員からの点検が行われている委員会名称については、学部等においては、執行部会、教授会であり、センター等においては、運営委員会、評議員会等をさす。また産業研究所等の研究所は研究推進社会連携機構評議員会の事業評価を5年に1度受けるよう規定されている。